



大豆の生育状況を確認する参加者

大豆生育状況確認 ～大豆部会～

大豆部会は8月17日大豆部会現地圃場巡回並びに講習会を開催し、現在の生育状況について学びました。

講習会には生産者ら25名が参加。今年は7月中旬の記録的な豪雨により、長時間帯水した圃場では枯死した株が見られたことや、降雨後に茎疫病の発生がみられたことから、病害虫対策の徹底を呼び掛けていました。

また、現地圃場巡回では、管内3カ所を巡回し、大豆の生育状況を確認しながら、効果的な除草対策についても確認しました。



仲買人に白神ねぎをPRする組合長（中央）



教えて!“白神農業” ～能代高生フィールドワーク～

9月1日、県立能代高等学校の1年生8人を受入れ、「当JA管内の農業」についてフィールドワークを行いました。

3班に分かれた能代高校生に対し、営農企画課職員が管内の農業の概要を説明した後、学生から事前に送られた質問に資料を使って回答しました。質問の内容は◇能代みようがの魅力・特徴について◇現在の農家の作物別人数割合、高齢者の割合◇外国人労働者の受け入れについての考えなど10項目に対し説明しながら、管内の農業に理解を深めました。



白神管内の農業について学ぶ学生

大消費地でトップセールス ～白神ねぎ～

JAと行政は8月22日、東京荏原青果で、「白神ねぎ」と「白神みようが」のトップセールスを行いました。

トップセールスには、工藤組合長、齊藤能代市長、佐々木藤里町長、全農あきた職員、市役所職員、JA職員などが参加し、市場関係者に対し、「白神ねぎ」と「白神みようが」の質の高さをPRしました。

コロナ禍の影響で市場でのトップセールスを行うのは4年ぶり。市場からは「人の流れが回復しており、需要がある」とのことから、出荷量の確保と品質の徹底に対応してまいります。



記録的大雨被害で被害を受けた圃場を視察



歌と踊りを楽しむ会員の皆さん

歌と踊り楽しむ ～年金友の会藤里支部～

年金友の会藤里支部は8月29日、ゆとりあ藤里で年金友の会の「会員親睦会」を開催しました。

JA藤里支店から年金受給している方々へ、日頃の感謝の気持ちを込め、会員同士の交流を深めてもらうと開催したものです。

コロナ禍により4年ぶりの開催となりましたが、会員77名が参加し演歌歌手の「吉川ちあき」さんら3名の歌謡ショーに大いに盛り上がりました。

また、大抽選会も行われ、参加した会員らは、来年もまた開催されるのを楽しみにしておりました。



厳格に規格を確認する部会員

記録的大雨被害

～藤木農水政務官が視察～

藤木眞也農林水産政務官が8月29日、7月中旬の記録的大雨で被害を受けた常盤川流域の水田と、三種町の鶴川陽水機場を視察しました。

常盤川流域では土砂の流入や冠水で水田約25haが被害を受け、藤木政務官は被害を受けた約67haを視察し、県や市、町、JA関係者が立ち会い、被害について説明を行いました。

視察後は意見交換会を開き、JA秋田中央会の小松会長、

健やかに納涼祭 ～いなほの里～

また、「安来節」では独自にアレンジを加えたドジョウすくいも披露され、会場から大きな笑いを誘っていました。

会場では紅白幕や紙花も飾られ、納涼祭の雰囲気を一層盛り上げていました。



賑やかな踊りが利用者を魅了

「白神ねぎ」品質検査 ～抜打ちで規格統一～

ねぎ部会では夏ねぎの出荷が最盛期を迎えた能代営農センター内で、その日出荷した白神ねぎが詰められた箱を開封し、抜打ちで出荷品質検査を実施しています。

更なる品質の向上・産地拡大に繋がるよう出荷規格を厳しくするのではなく、出荷規格を守らせるための方策として、ねぎ部会が実施主体となり実施しているものです。

部会役員・部会員を中心に規格表を基に、白根の長さや葉の状態、軟腐病の混入など厳格に検査が行われ、白神ねぎのブランド確立に向け取り組みは継続してまいります。

会の冒頭にはJAグループ秋田が復旧に向けて緊急要請を行い、被災農家が農業経営を継続できるよう支援を求めるとの要請書を手渡しました。

藤木政務官は「日でも早く災害復旧に向け取り組みを支援していきたい」と述べていました。

当JA工藤専務、秋田やまもと組合長らが被害状況や、各要望について意見を交わしました。